

経済マンスリー [アジア]

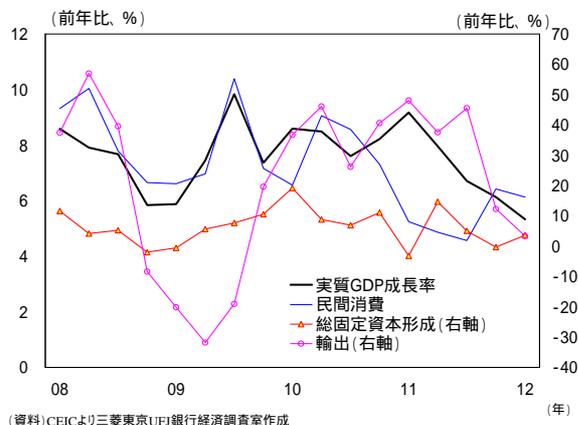
景気減速下で利下げを見送ったインド

欧州経済の低迷が輸出の減速を通じアジアの景気を下押ししている。5月31日に発表された1-3月期のインドの実質GDP成長率は、前年比5.3%と市場の事前予想(同+6.1%)を下回った(第1図)。先に発表された中国(同8.1%)も予想を下回る結果となり、これまで堅調を維持してきた内需・人口大国にも海外景気減速の影響が徐々に広がっている。

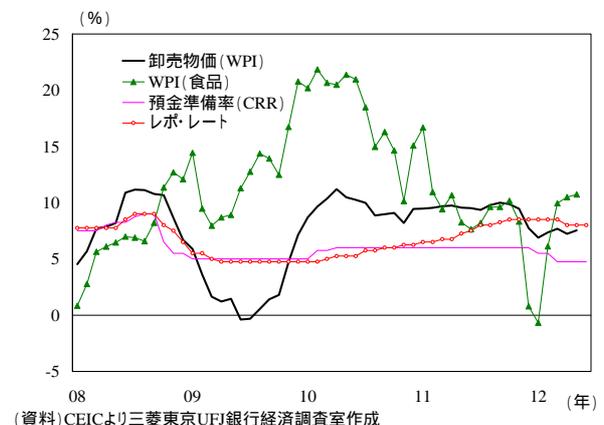
中国が5月以降、利下げや省エネ製品への補助金など景気でこ入れに本腰になる一方、インドの対応は遅れている。インド準備銀行(RBI)は、4月に約3年ぶりとなる利下げに踏み切ったが、6月18日の金融政策会合では追加利下げを見送り、市場を驚かせた。RBIは利下げ見送りの理由として、インフレ圧力が根強いことを挙げた。実際、5月の卸売物価上昇率は前年比7.6%と前月の同7.2%から再上昇、同時に3月は同6.9%から同7.7%へ上方修正され、昨年12月以降、7%半ばで高止まっている(第2図)。インフレの主因である食品価格高騰の背景には、所得拡大に伴う食生活の変化がある。都市部のみならず、政府の農村雇用保証制度により農村部の収入が拡大し、卵や牛乳など高たんぱく食品の需要増加が食品物価を押し上げている。

インド経済回復の鍵は内需が握っている。1-3月期の成長率の中身をみると、民間消費(前年比+6.1%)が賃金上昇や農村雇用対策の拡充などを背景に堅調を維持した一方、総固定資本形成(同+3.6%)は2四半期ぶりにプラスに転じたものの回復は鈍い。根強いインフレ圧力を背景に金融緩和余地が限定的であることに加え、高水準の財政赤字(2011年度:GDP比5.9%)を抱え財政余地も乏しいことから、景気全体の回復ペースは緩やかにとどまるであろう。

第1図:インドの成長率関連指標



第2図:インドの物価・金融指標



照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 矢口 満 mitsuru_yaguchi@mufg.jp
竹島 慎吾 shingo_takeshima@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。